

新小樽(仮称)駅の附帯施設について

- 1** これまでの検討
 鉄道・運輸機構の高架橋概略設計を基に事務局で附帯施設配置の試案を作成し、
 第4回 まちづくり協議会〔R2.3.24開催〕において提示。

⇒ 新小樽（仮称）駅は駅舎改札前の床面積が狭いと想定される。

- 2** 新幹線の開業効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを行うための具体的な行動計画
 「おたる新幹線まちづくりアクションプラン」(原案) より

新駅の交通結節点機能の向上

公共交通の利用を促進する
サービスの提供と魅力づけ

駅利用者の利便性の向上

これらの
取組を
実践する
ためには
...

- ・バスやタクシーなどの二次交通の待合室
- ・レンタカーのカウンター
- ・駅施設のみでは不足する分のトイレや授乳室

- ・宅配サービスを含む荷物の預かり所／コインロッカー
- ・多目的スペースを兼ねたロビー
- ・サテライトオフィスや貸会議室など

- ・観光案内
- ・コンビニ等の物販施設

左記の
ような施設が
求められる

⇒ 利便性の高い駅舎に**附帯施設用の一定規模**《数百㎡程度》の**スペースを確保する必要がある**。

- 3** **スペースの確保に向けて**

〈鉄道・運輸機構〉

R3年明けから駅舎建築の基本的な構造に影響のある高架橋の土木設計について、詳細設計に入る段階であることから、

⇒ 整備主体である 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構に対して、
 駅舎に地元が活用できる附帯施設用の**スペース確保を要望**していく。